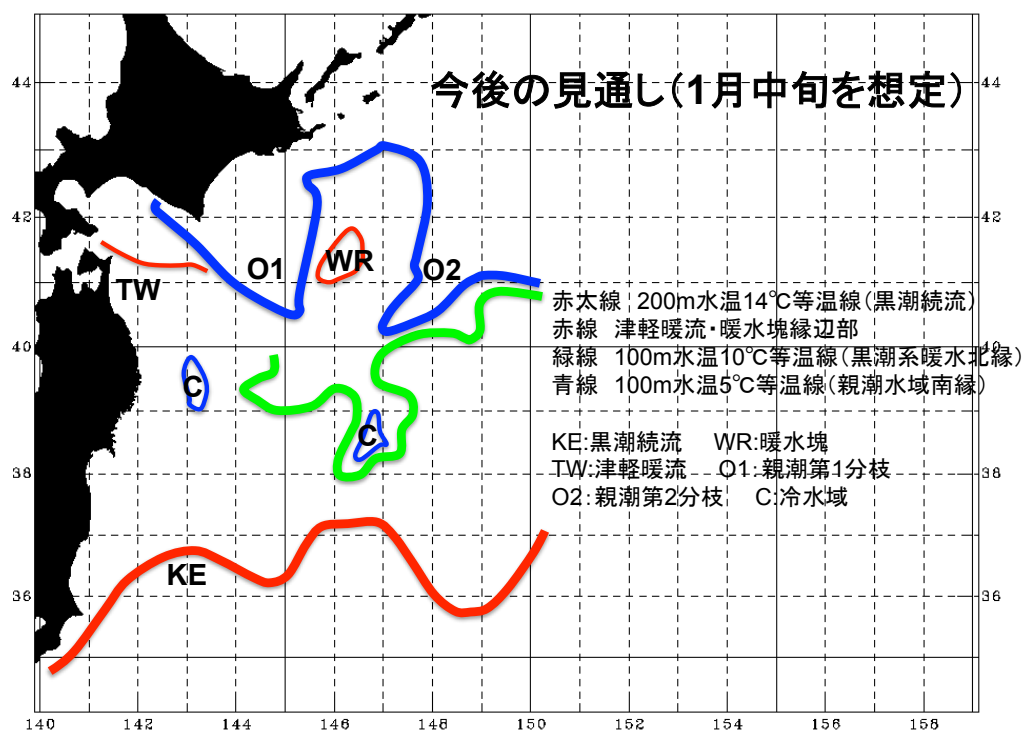


平成26年度 第4回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
東北区水産研究所、北海道区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成26年12月～平成27年1月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや南偏で推移する。
- ・ 釧路沖の暖水塊は停滞し、三陸近海の暖水塊は12月まで停滞したのち消滅する。



問い合わせ先

独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所 業務推進部

担当：大関、山田

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

電話：011-822-2131、ファックス：011-822-3342

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成26年度東北海区海況予報 第4号

《今後の見通し（2014年12月～2015年1月）》 （注）FRA-ROMSシステムによる結果

近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや南偏で推移する。また、釧路沖の暖水塊は停滞する。三陸近海の暖水塊は12月まで停滞したのち消滅し、三陸近海に冷水域が残る。

《海況の経過（2014年9月～2014年11月）の特徴》 （注）FRA-ROMSシステムによる結果

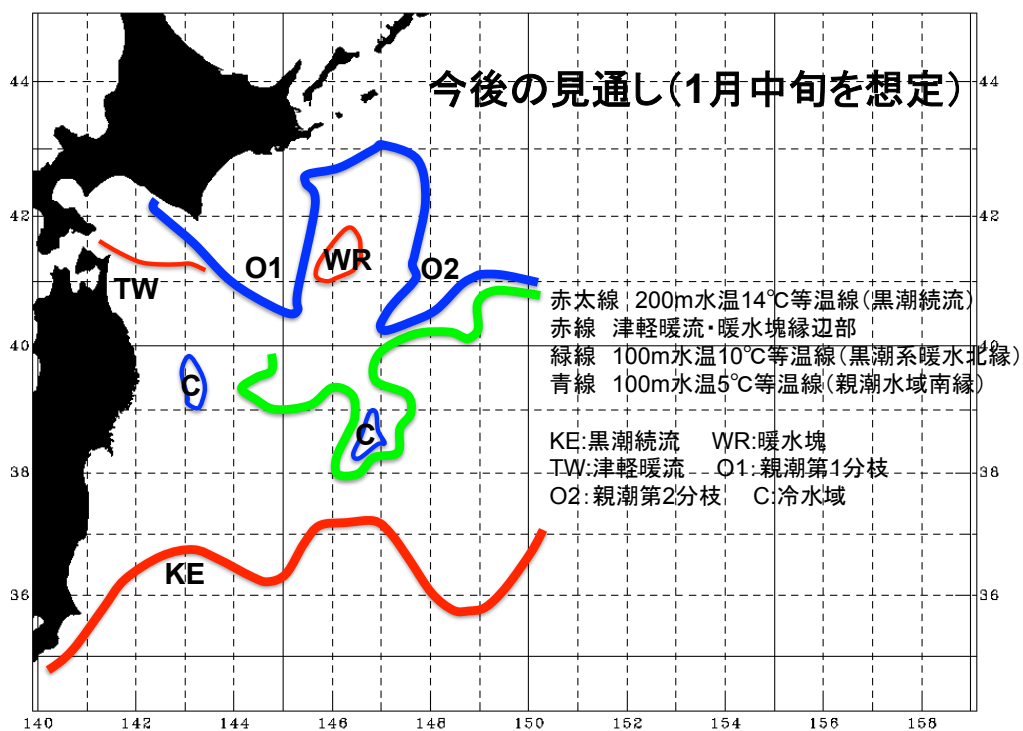
近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや南偏で推移した。また、釧路沖の暖水塊は10月まで停滞したのち東進した。三陸沖合の暖水塊は西進して近海に達したのち北上した。

《現況（2014年11月下旬）の特徴》 （注）FRA-ROMSシステムによる結果

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏、親潮第1分枝の張り出しは平年並みである。また、暖水塊が釧路沖と三陸近海にあり、三陸近海に冷水域がある。

（注）この海況予報は、独立行政法人水産総合研究センターにより開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いている。

1月中旬予測水温分布図

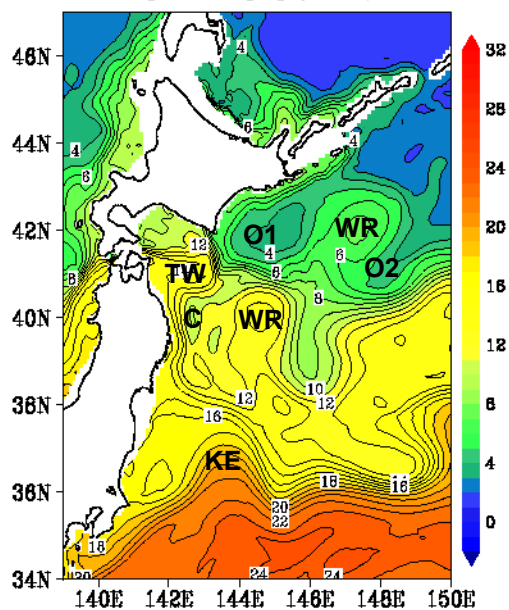


11月下旬現況水温分布図 (100m深)

2014/11/28

FRA-ROMS

Temperature[°C] (100m)



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、WRが暖水塊、Cが冷水域、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流を表している。

参 画 機 関

| | |
|---|---|
| <p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p> <p>茨城県水産試験場</p> | <p>独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> |
|---|---|